

平成29年度 学校評価書

学校名：兵庫教育大学附属中学校

1 学校教育目標

人生をたくましく豊かに生き抜くために、考え、鍛え、行動する人間の育成 「生きる力（ZEST FOR LIVING）」の育成を目指し、知・徳・体の調和の取れた人間性豊かな生徒の育成

2 本年度の重点目標

(1) 活気あふれる学校づくりに向けての学校運営組織の活性化	(2) 魅力的で楽しい学校生活のための生活環境、学習環境の充実
(3) 心の結びつきを基調とした生徒理解・生徒指導、及び学年・学級経営の充実	(4) 確かな学力の定着と個に応じた指導の充実
(5) 教職員個々の資質向上、及びそのための研修の充実	(6) 地域や家庭との連携強化、生徒や保護者との信頼関係の構築

3 自己評価結果（達成状況） 【A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない】

4 分野・領域ごとの学校関係者評価

分野領域	評価項目（取組内容）	取組達成の状況	評価	改善の方策	学校自己評価結果及び改善の適切さについての評価
学校・園運営	○組織運営 ・管理職がリーダーシップを発揮し、大学と連携した学校運営	○教育課程を中心に、組織全体として多くの検討事項を見出し、内容によっては大学と連携し、改善に取り組んでいる。 ○各部委員会により、継続審議の案件もあるが、議論が活発に行われており、良い方向性が見えている。	B	・附属学校園の一貫した運営方針を実現するために、教職員の学校運営への参画の意識を高める。 ・実地教育と先行事例的な研究とともに、附属学校の存在意義を見直す。	評価は概ね適切である。 管理職のリーダーシップとともにミドルリーダーの育成に期待する。 危機管理面では幼少中連携した防災教育の推進や防災環境の充実に期待する。
	○学年学級経営・特別活動 ・生徒一人一人に主体性をはぐくむ取組 ・互いに認め合い、居場所のある学級学年経営 ・情報共有、連携による学級学年経営	○生徒主体で行われる各行事は、附属中らしさのある伝統として形づくられている。 ○学年・学級経営は、学級や学年間でルールに多少のばらつきがある。	B	・教師の生徒へのかかわり方を共通理解し、生徒主体の学校行事、学校生活をさらに推進していく。 ・附属学校としてのスタイルと教師個々の個性とのバランスの取れた学年、学級経営を進めていく。 ・教員間での情報共有を密にし、早期の問題解決を図る。	
	○危機管理・安全・防災・施設設備 ・安全な施設設備、教育環境の整備 ・防災教育の充実 ・健康安全教育の推進	○防災教育を通して、生徒自らが、生命を大切に守ることを学ぶ機会を持たた。 ○現時点での安全面に大きな問題は感じられないが、施設整備や教育環境が、老朽化している箇所はある。	B	・学校行事としての防災学習だけでなく、日常のあらゆる場面において、危機管理能力を育む指導を工夫する。 ・定期的な設備安全点検の実施を徹底する。	
	○生徒指導 ・生徒個々の共感的内面理解と人間関係構築 ・全教職員の共通理解と情報共有による問題行動等への対応	○生徒一人ひとりの共感的理解と人間関係構築のサポートに積極的に取り組み、落ち着いた学校生活ができています。 ○情報共有は概ねできていたが、その後の対応に学年間のばらつきが見られた。 ○SNSの利用方法について講演会を開き理解を深めた。	B	・生徒の内面理解に重点を置いた生徒指導の充実にさらに務める。 ・教員間で生徒指導方針の共通理解の徹底を図る。 ・SNSの利用について、継続して家庭と連携を深める。	
	○研究活動・授業の充実 ・研究研修体制の確立 ・授業改善に向けた研究の充実	○「獲得できる資質能力が明確な授業デザインをつくる」という共通認識を持ち全職員で研究に取り組めた。 ○研究についての広報を積極的に行い、さらに保護者や地域と連携する必要がある。	B	・早期の綿密な年間計画、充実した校内研修により、授業改善を行う。 ・授業公開や通信などを通して、本校が取り組んでいる研究に広く理解を求める。	

教育研究活動	<p>○道徳・人権教育・子供理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科に向けた「考え、議論する」授業の充実 ・仲間づくりの推進、互いに敬意を払える人間関係構築、人権感覚の育成 	<p>○生徒が互いに意見を共有し、伝えるだけでなく「聴く」、「受け入れる」力を育てようと試みている。</p> <p>○ローテーション授業を行うなど、道徳における指導力の向上に向けて、一定の成果が出ている。</p> <p>○「共生」に重点を置いた人権学習に計画的に取り組めた。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「考え、議論する」道徳授業の充実に向けて、教員の指導力向上に取り組む。 ・職員研修の更なる充実を図る。 ・人権作文の取組は、今後時期や方策について検討していく。 	<p>評価は概ね適切である。</p> <p>公立学校における「トライやる・ウィーク」に代わるキャリア教育の推進に期待する。</p> <p>教科化に向けた道徳教育の取組、持続可能な個に応じた合理的配慮に基づく支援の充実を期待する。</p>
	<p>○特別支援教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮の基づく個に応じた支援の充実 	<p>○個に応じた生徒支援について、コーディネーターと学年主任、学級担任、保護者を交えた話し合いで決定できた。</p> <p>○個々の生徒の現状に応じた対応は概ねできている。</p> <p>○現状の学校体制の中、出来る範囲での個に応じた支援を行っている。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮（reasonable accommodation）について、本校なりの共通理解を進めていく。 ・インクルーシブ教育についての理念を、教員間とともに生徒間にも広めていく。 ・大学特別支援コースの先生方との連携協力を密にしていく。 	
	<p>○キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア総合選択授業、アントレプレナー教育の充実 ・個々の目標に応じた進路指導の充実 	<p>○キャリア総合選択授業では、大学と連携を取り普通の学習を超えた学びの中で、生徒は意欲的に取り組めた。</p> <p>○アントレプレナー学習では、3年次で1,2年の学びを活かした企画立案・構想を行い新たなものを生み出す喜びを知れた。学年を超えたプランニングに課題が残った。</p> <p>○進路指導では、一人ひとりと向き合った進路決定ができた。進路指導に充てるための時間の確保や1,2年との密な連携に課題がある。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア総合選択授業では、9教科の枠を超えた講座を増やしていく。大学の研究に即した内容を学べる場としての講座も検討していく。 ・アントレプレナー学習では、生徒に獲得させたい資質能力を明確にし、1年次から3年次へと発展できるように工夫する。 ・進路指導では、学校としての指導の共通理解を深める。 	
地域・他校種連携	<p>○開かれた学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携、PTA活動の充実 ・学校からの情報発信 	<p>○大学教員と連携し、キャリア総合学習や教科・道徳の授業研究、特別支援教育、研究推進に取り組めた。</p> <p>○HP更新や学年・学級通信発行による情報を発信できた。</p> <p>○PTAと連携し、活動しやすく潤いのある校内環境を整えることができた。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各種通信を通して、発信内容を充実させる。 ・PTA主催行事の精選と内容の見直しをする。 ・地域との交流推進を探る。 	<p>評価は概ね適切である。</p> <p>大学とのこれまで以上の連携、学部生の実地教育とともに大学院生の実地教育の充実を期待する。</p>
	<p>○大学附属学校園連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学及び附属学校園の連携強化と発達段階に応じた教育活動の充実 ・大学の先生方との積極的な連携、教科等の指導力の向上 	<p>○三附属連携研修会や教科ごとの研修会などで大学と連携しながら、次期指導要領に向けての研修の充実が図れた。</p> <p>○三附属交流会の回数を増やし、組織的かつ継続的に一貫性のある、将来を見据えたカリキュラム研修を行った。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中の三附属の教員同士・子供同士の交流が深まるように、授業や行事の交流を工夫する。 ・今後も適切な時期に交流会を持てるように、年間計画を調整計画していく。 	
	<p>○実地教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員に必要な素養を高める指導と教員自身の資質能力の向上 	<p>○多くの実習生を受け入れ、実践的で専門的な指導を実習生一人ひとりに応じて行うことができた。</p> <p>○指導に当たる教員も、実習生の指導を通して、教員としての資質を向上させることができた。</p> <p>○実習指導と評価について指導教員の共通理解を深める時間が十分ではなかった。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員数・教科時数に見合った実習生を受け入れ、一人ひとりに対する指導内容を更に充実させる。 ・実習生に、教科外指導の重要性を認識させることができるような実地の在り方を考える。 ・実習指導と評価について指導教員の共通理解を深める時間を確保する。 	